

「おはよう！」通学路に元気な声が響きます。
声の主は、高橋清治さん。毎日、五荘地区内の交差点で登下校時の見守り活動を行っています。
子どもが大好きな高橋さんは、兵庫県警察を退職後、下校時の見守り隊として活動。活動を続けるうちに、通学路の交通量の多さに不安を抱き、子どもたちが安全に登下校できるように5年ほど前から登校時の見守りをはじめました。活動時に心掛けていることは、しっかりとあいさつを交

わすこと。最初は恥ずかしがっていた子どもたちも、今では、みんなあいさつを返せるようになりました。子どもたちの笑顔が元気の源という高橋さん。元気なうちは見守りを続けたいと語ります。
見守り以外でも大活躍です。補導委員や地域ふれあいの会の活動に尽力。また、玄武洞公園のボランティアガイドを務めた縁で、豊岡観光協会の活動も無償で手伝っています。地域を支える頼もしい存在。今日も、元気な声が子どもたちを優しく包みます。



子どもたちの笑顔が元気の源
地域を元気にしていきたい！
高橋清治さん(69歳)高屋



豊岡観光協会の皆さんと

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲はいっ！

新春かるた大会

暗記力と瞬発力でいざ勝負！

1月13日、竹野地区コミュニティセンターで、第12回図書館新春かるた大会が行われました。合併以降毎年開催されている恒例行事です。

いろはかるたを用いた「かるたの部」と「百人一首の部」があり、幼稚園年長から小学校6年生まで、延べ約30人が参加。3～4人の対戦グループに分かれ、取った枚数で順位が決まります。

場に並べられた札をしっかりと見つめ、どのグループも真剣勝負。百人一首では、大人顔負けの早さで札を取る暗記力の高さも見られました。

かるたの部で優勝した京極結乃ちゃん(竹野小2年)は、両方の部に参加。百人一首よりも「かるたの方が好き」と話しました。

どんど焼き

無病息災などの願いを込めて

各地で「どんど焼き」が行われる中、1月14日には、栗尾区(但東地域)の田んぼに地域の方が集まり、無病息災や五穀豊穡、子孫繁栄などを祈願し、どんど焼きが行われました。

但東地域在住で元関西大学文学部教授の森 隆男さんが「火の力で正月の神様を他界に送る行事」などと、どんど焼きの由来を説明。その後、正月飾りと共に竹で組まれた高さ12mのやぐらに火が放たれると「パチパチ、ドーン」と音を立てながら、天高く燃え上がりました。

書初めを火にくべた平岡拓歩さん(但東中1年)は「でこが焼けるくらい熱かった。願いがかなってほしい」と話し、皆でどんど焼きの炎で焼いた「五升餅」を食べていました。



▲どんど焼きの炎で焼かれる五升餅